

研修報告書 No.16

所 属： 国立国際医療研究センター病院

氏 名： 吉本 岳瑠

研修先： 嶺北中央病院

このたび、令和6年12月2日から令和6年12月27日にかけて1ヶ月間、高知県の嶺北地域に位置する本山町立国保嶺北中央病院にて地域医療研修に従事しましたので、ここに報告いたします。

人生で初めて高知に足を踏み入れ、車で研修施設に向かう途中、脈々と連なる山々が手を広げて出迎えてくれました。東京生まれの自分の四国の印象は、四方を囲む瀬戸内海や太平洋が主であり、山地率が9割を超える高知の地形にまず驚かされたのを覚えています。その山々の中心に位置する嶺北地域に、私の研修先がありました。

土佐町、本山町、大豊町、大川村の4域にまたがって医療を提供し、同地域唯一の救急病院である嶺北中央病院は、急性期病棟と療養病床を併せ持ち、常勤医師によって支えられる内科、外科、整形外科を中心に入院診療を行っています。設備面では、日常診療に必要な血液検査項目、CT、MRI、エコー、内視鏡を取り揃えており、採用されている薬剤も豊富で、内科領域に関しては急性期病院と遜色ない診療を行えると感じました。他方で、自分が志している外科領域に関しては、麻酔科がいないためにヘルニアや静脈瘤といった局所麻酔で行える小手術に留まりますが、他方で皮膚疾患、軽度外傷、末梢血管疾患など、常時対応できる科が少ないために一般外科が担える幅広い分野を担当するとともに、褥瘡回診、栄養計画など、慢性期の療養病床を持つ病院ならではの役割が付与され、専門に応じて枝分かれする急性期病院とは違った、いわば「未分化」な外科に触れることができました。

嶺北中央病院では、特定の曜日に限り、他病院からの派遣で脳神経外科、産婦人科、泌尿器科、皮膚科の外来診療を受けられます。実際に外来を見学すると、これらの専門科は高齢化が進んだ地域での需要が非常に高く、派遣できる人材が限られている中で最大限の医療を提供する目的に沿って厳選されていると感じました。都市部の大病院にて研修を行っている、あらゆる科に医師が常駐しており、専門外の分野に関して迅速にコンサルトできる「餅は餅屋」的な診療が可能です。常勤医師の少ない小規模病院ではそうもいかず、特に内科に関しては複数科にまたがる common disease への対応が必要になります。循環器や呼吸器に加え、慢性腎臓病に対する透析、消化器疾患に対する内視鏡など、総合診療科とはまた一線を画するジェネラリストの診療に触れることができました。

へき地診療では、汗見川診療所や大川村診療所など、人口の少なく高齢化の進んだ地域に赴き、限られたリソースで慢性疾患のコントロールを行います。自力での来院が困難な患者さんには月に1回訪問診療により介入し、特に生活が困難な独居、老老介護の高齢者は施設入居やデイケアによる支援を行います。このように文字に起こすことは容易いですが、実際に患者さんの家を訪れたり、通所リハやデイケアに参加させて頂くと、都市部とは全く違った医療提供の困難さ、ソーシャル介入への障壁を痛感します。90歳を超え、つたい歩きもままならないご老人が、病院から車で山道を1時間のぼった先にある生家に独りで住み続けていたり、認知症が進み服薬コンプライアンスの担保されない心不全の患者さんが、施設入居や訪問看護を拒否していたり、地理的、文化的、リソース的な面を考慮して妥協点を模索しなければいけません。

当研修で得られたものの中でも最も大きいのは、外来診療や病棟業務よりも、こういった診療外での地域に住む患者さんひとりひとりの生活、価値観、そして人となりを感じられたことだと思います。その点で、通常診療外の医療スタッフを含めた全人的な医療に比重をおいて体験させてくれた当研修は、非常に価値あるものとなりました。嶺北中央病院にてご指導ご鞭撻いただいた医師、医療スタッフの皆様、そして嶺北地域に住まう温かい人々全員に、心から感謝申し上げます。